



# 飯能ロータリークラブ会報



桜の中央公園と天覧山

© photo by Hiroyuki Maejima

## “ロータリーに輝きを”

RI会長  
ゲイリー C.K.ホアン  
2570地区ガバナー  
坂本元彦

### 「行動, ACTION」

第2641例会 2015. 4. 1

—— 雑誌 月 間 ——

天候曇 (NO. 51-40)

会長 山川 莊太郎 幹事 高橋 弘

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 島田君、杉田君

例会場: ホテル・ヘリテイジ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)974-3111(代) FAX (042)973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 山川会長
- ・ソング 君が代 奉仕の理想
- ・四つのテスト斉唱 田辺職業奉仕委員長
- ・卓話 福永 昭様

#### 【会長報告】

桜が咲き、春爛漫という言葉がぴったりの時。あと3日で50周年記念式典です。これまで準備して頂き本当に有難うございます。石井道夫会員が喜寿。おめでとうございます(拍手)。

#### 【幹事報告】

第11回理事会役員会。前回議事録確認。5月プログラム承認。親睦旅行は参加50名、バスは49人乗り。親睦委員はタクシーで先導との企画もあり。添乗員同行。ミシュラン1つ星レストランを予約。ナイトクルーズあり。まもなく年度の引き継ぎ。RCは単年度事業、各委員長が自由な発想で事業を遂行するのが原則ですが、継続性が求められる委員会にあつては、理事会にご報告頂いた上で、引き継ぎ等、セレモニーを行って頂くようにしようという事が確認されました。また、RCはあくまで楽しむところであるので、委員長が1人でいろいろ抱えて骨を折るような事なく、何でもオープンにし合える環境づくりをしていこうという事も確認。本日、書籍をお持ち帰り下さい。

◎例会変更のお知らせ

◇狭山中央RC

・5/5(火)例会取止(定款6-1-C)

◇入間南RC

・4/21(火)入間RCとの合同例会

「丸広」さくら草ホール 点鐘18:30

・4/28(火)夜間例会(竹の子例会)「寿々木」点鐘18:30

・5/5(火)例会取止(定款6-1-C)

- ・5/12(火)工場見学に振替
- ・5/26(火)夜間例会「魚いち」点鐘18:30

#### 【委員会報告】

◎50周年記念式典委員会 大附君  
式典は全員参加となっておりますが、万一どうしてもダメだという方はお申し出をお願いします。

◎次年度幹事 土屋(崇)君  
4/8次年度役員委員長顔合わせ会18時半~清河園、対象26名。欠席の連絡をお願いします。

【出席報告】無断欠席なし 馬場出席委員長

会員数		当日		前々回修正 出席率
全数	対象	出席数	出席率	
58名	6名	47名	81.03%	89.66%

#### 【M U】

3/24(日高)前島君

#### 【SAA報告】

◎ニコニコBOX

- ・福永先生、卓話楽しみにしております。沢辺君 山川君、間邊君、小川君、高橋君、矢島(高)君
- ・長い間お世話になり馬齢を重ねてここまで来られました。本日は有難うございました(喜寿)。石井君
- ・早退 小崎君、杉田君

本日計18,000円、累計額958,636円。

◎15日例会当番は塩野、沢辺会員です。

#### 【卓話】

講師紹介 松下雑誌委員

担当科目は主に観光情報政策論、旅行資源論。研究テーマは観光地のライフサイクル、旅行管理者教育、等。飯能市エコツーリズム推進協議会委員。

## 私が思う飯能観光の姿 ～さらに上質な観光地をめざして～

駿河台大学現代文化学部教授 福永 昭様

2012年4月から翌年3月までタイのバンコクで暮らしその間、日本からは毎月のようにいろいろな方が訪れ楽しい時間を過ごさせて頂いた。40度を超える気温にも慣れ30度を下回ると「寒いな」と感じるようになった。暑いと感じるのは犬も同じで、腹をコンクリートにつけて体温を逃そうとしている犬の姿はバンコクの名物の一つだと思ふ。

現在のバンコクは東京にも匹敵する近代的大都市になりつつあり、豪華なショッピングセンターやレストランが次々と生まれている。しかしながら日本からのお客様はそのようなビル群を期待しているわけではなく、「アジアチック」な、ごちゃごちゃして活気があってちょっといかにわしいようなところを期待していらっしゃるようである。そういったお客様を私が案内するのが「サンペン・マーケット」。長さ1キロ位の狭い路地にさまざまなお店があり、衣料品、家具、食料品、宝飾品、DVD、何でも売っている。ただでさえ暑いバンコクで人が沢山集まっているので、地域が白熱しているような印象さえ受ける。足下の汚水に注意しながら1時間程かけて通り過ぎるとぐったりしてしまい、出口近くの中華料理屋でフカヒレ料理を食べて冷たいビールを飲む。それが定番のコースでした。おすすめの土産はタイ文字で書かれた時計。1個100バーツ、300円位。趣のある上品な土産物だと思います。マーケットの近く、カオサンの露店では「ニセの大学卒業証明書」を売っていました。

果たしてこのような観光地を飯能に作っているのかどうか、飯能に似合う観光地なのか、というところから話を始めたい。個人的な考えのため、ご異論がある方も沢山いらっしゃると思うがご許し頂きたい。飯能にはサンペンマーケットのようなところではなく、ゆったりと、落ち着いた静かな観光地開発が求められるのではないかと。そして、すでに今の飯能はかなりの程度、そのレベルに達している。他の観光地に比べ、誇るべき、素晴らしい観光地にもうすでにになっている、と私は考えております。

私は10年程前に飯能に引っ越して参りました。前に住んでいたのは江戸川区西葛西の高層マンションの21階。窓を開けると首都高速が目の前を走り、隣は巨大な物流倉庫。夜も暴走族が元気に走っていた。飯能に参りますと空が大きく開いておりました。高層建築、巨大な建物等、威圧感を与えるような建物がございません。飯能には大きな空間があります。けげんげしい色や安っぽい原色、そういったものがございません。落ち着いた色合いがあると思います。そして、トラックの騒音、街中に流れる歌謡曲、深夜のバイクの音、歩く人の大きな声がございません。飯能には静けさがございます。「もっと早く飯能に来ていれば、もっと違った人生が歩めたのではないかと」と家内とよく話しております。飯能には静けさも大きな空間も緑も沢山あります。それだけで東京から飯能に来た人を十分に満足させる事が出来ます。飯能は本当に素晴らしいところだと思っております。

今までは、ただ温泉が出るだけの、鄙びた観光地だった湯布院が、その鄙びた風情、落ち着いた雰囲気、売物にして日本一と並び称される温泉保養地となっております。[スライド鑑賞] まちの至る所から見える、シンボルのような由布岳。JR湯布院駅と由布岳を結ぶ「湯の坪街道」が湯布院の銀座通り。軽自動車がやっと2台すれ違える程度の狭い道です。そこに年間人口の十倍もの人が訪れる。一見すると落ち着いた街並みですが、大都市の資本が多く入っており、地元の資本が外に出てしまっています。沢山のお客様が入っている「千円楽座」。果たして湯布院らしい土産物売り場なのか。若い女性に引張られ男性がやって来る。大都市の資本が洒落たレストラン、美術館等をあちこちに作っており、これも湯布院らしい雰囲気になっているのかどうか。「湯布院バーガー」もお客様が並ぶ場所です。このような物を求めて来る人は、



湯布院が「来て欲しい」と思っている人達なのでしょうか。湯布院は元々静かな村で、その静けさを売りとしていた。今の湯布院は若い女性、男性が沢山やって来て、車は大変な渋滞。若い人向けの観光地になってしまった。これは当初、湯布院を開発した人達の考えとは違います。

もし名栗に巨大なバスが乗り入れるとしたらどうなる事になるのでしょうか。バスからたくさんの若い人達が降り、「キティちゃん」の大きなお店が出来て賑わっているとすると、果たしてそれは飯能が目指す観光のかたちでしょうか。

観光地はその観光地が思うようになかなか発展しないものです。意図しない方向に開発がどんどん進んでいってしまうことがある。原因の1つは、観光のかたちが変わる点。それまでは1泊宴会の団体旅行だったものが、個人の滞在型旅行に移ってきた。同じ場所を訪れるにしてもお客様は違う魅力を見出そうとする。同じものに満足してはいないのです。人は常に「飽きて」いる。その飽きる人を引き戻すために、また新しい魅力を次々に創り上げていかなければならない。

沢山の資本が集まり、「ある地点」を超えてしまうと、そこから先はお客様が毛嫌いするようになる。その「ある地点」ははっきりと計算で出るものではないので気づかないうちに超えてしまう事がある。そういった事が結局はその観光地を傷つけてしまう。一万人が訪れると一万人分の傷を残す。住民の十倍、百倍の観光客が来るような観光地には、凄まじい傷を残すことになるかと思ふ。

湯布院は今、大きな岐路に立っています。このままの状況が進めば劣化が始まり、お客様も減ってしまうのではないかと。湯布院側も交通規制等努力されているが上手くいっているのかどうか。狭い地域にはその地域に見合った数のお客様しか受け入れる事が出来ない。それ以上のお客様が集まってしまうと、お客様がその土地を傷つけてしまうのではないかと。「昔ながらの村人の暮らしを楽しみたい」というお客様が来なくなってしまっている。望ましくない観光客が集まってしまっているというのは湯布院にとって好ましい事ではないのではないかと。この状況を変えていかないと、観光地としてはライフサイクルが短くなってしまわないかと私は思ふ。

飯能の「来て欲しいお客様」とは、個人的な考え方ですが、「ゆっくりと村里の生活を楽しむ」それを求めるお客様。そうでないお客様にはなるべく働きかけない、というかたちが必要なのではないでしょうか。ある程度の余裕を残す「キャリング・キャパシティ」(受容限度)という考え方があります。飯能にも、余裕を残しながらある程度のレベルで観光客を抑えるという発想法は存在し得ないのでしょうか。「一人でも多く」ではなく、「来て欲しいお客様」に来てもらいたい。そのように方針転換をしても良いのではないかと私は考えております。今の飯能の素晴らしいさを、今後も観光客に傷つけられる事がないように、ますます飯能の素晴らしいさが洗練されて、今以上に素晴らしい、上質な観光地になって頂きたい。それが私の願いであります。

今後共RC様には飯能という地域社会を支えて頂けますようお願い申し上げます。

### 平成27年5月のプログラム

月 日	例会数	行事予定	当番 [担当委員会]
5. 6	2,646	例会取消(法定休日)	
5.13	2,647	卓話「ポール・ハリスの【四つのテスト】生い立ちからロータリー創立まで」 飯能RC 増島宏徳会員	田辺君 土屋(崇)君 [出席]
5.20	2,648	卓話「飯能の地域とその活用」 駿河台大学准教授 平井純子様	吉田(健)君 矢島(嗣)君 [プログラム]
5.27	2,649	卓話「作る人と食べる人の顔が見える農業」 ～こだわりの無肥料自然栽培の固定種野菜 小島丈幸・直子ご夫妻	吉田(武)君 吉島君 [プログラム]

※次週の例会案内は省略。